

26.04.12 「革命家にとって、降伏するという概念は存在しません」

グランマ紙

キューバ共産党中央委員会第一書記兼共和国大統領ミゲル・マリオ・ディアス＝カネル・ベルムーデスによる、NBC ニュース『ミート・ザ・プレス』のジャーナリスト、クリステン・ウェルカーとのインタビュー。2026年4月9日、ホセ・マルティ記念館にて。

著者：キューバ大統領府

2026年4月12日 12:04:58

ディアス＝カネルへのインタビュー



写真：エストゥディオス・レボルシオン

クリステン・ウェルカー：ディアス＝カネル大統領、『ミート・ザ・プレス』へ、ようこそ。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：ありがとうございます。この機会をいただき、またキューバにお越しいただき、感謝申し上げます。

クリステン・ウェルカー：この美しい国へ招待していただき、ありがとうございます。光栄です。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：皆様がここに来てくださったことを、私たちも大変嬉しく思っております。

クリステン・ウェルカー：ありがとうございます、本当にありがとうございます。
まず、トランプ大統領についてお伺いしたいと思います。彼は、何らかの形でキューバを掌握する計画があると述べました。彼は、「私はキューバに対して好きなようにできると思う」と語りました。あなたはトランプ氏の脅しを真剣に受け止めていますか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：ここ数日、大統領だけでなく、米国政府の他の高官たちからも多くの発言がなされていますが、それらは確かに、キューバに対する攻撃的な言葉遣い

や論理を示していると思います。

わが国の歴史を知る必要があります。わが国は、主権と独立という価値観が国民のアイデンティティに深く根付いている国です。150年にわたり、キューバはまず植民地支配から、そして新植民地主義から脱却するために戦ってきました。そして、1959年1月のキューバ革命の勝利により、一連の従属関係は一掃され、外国勢力による支配や従属も消し去られました。これにより、国にとって有益な一連の結果がもたらされましたが、キューバ国民はこれらを放棄するつもりはありません。

私たちの独立戦争における最も傑出した将軍の一人、アントニオ・マセオはこう述べました。「キューバを支配しようと企てる者は、戦いで命を落とさなかったならば、血に染まったこの地の塵を拾うだけだろう」と。

私たちは、平和を愛する国です。私たちは、戦争を煽ることはなく、戦争を好むこともありません。私たちは、連帯と諸国民間の協力を促進しますが、私たちが望むその平和を守る用意があります。したがって、私たちは、脅迫に屈することなく、不意打ちや敗北を許すつもりもありません。これが、この脅威に対する一つの解釈であり、キューバの立場でもあります。

もう一つの解釈は、キューバは、自滅するだろうという主張であり、私たちを「破綻国家」や「崩壊寸前の国」というレッテルを貼ろうとするものです。しかし、現実には、これを否定しています。このような国が、67年間にわたりあらゆる種類の圧力や侵略に耐え抜き、さらには60年以上にわたり、史上最も長期にわたる封鎖、すなわち犯罪的かつジェノサイド的な封鎖に耐え抜いてきたのです。これらのテーマについては語り尽くせませんが、キューバ国民、そしてキューバ革命は、自らを守る覚悟があることをお伝えしておきます。

クリステン・ウェルカー：次の質問に移ります。

トランプ大統領は、ベネズエラのマドゥロ大統領に対して行ったように、あるいはイランで最高指導者を殺害したように、キューバに対しても同様の措置を講じようとしています。あなたは、米国政府によって逮捕されたり、暗殺されたりする可能性があるとお考えですか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：それは、非常に興味深い質問です。私は、キューバと他国との間で類似点を引き合いに出されることを決して好みません。なぜなら、私たちには独自の歴史があり、独自の状況下で活動しているからです。また、それは、私たちの歴史や、私たちの団結の強さ、そして制度の強さを少しばかり理解していないことにもなります。



写真：エストゥディオス・レボルシオン

革命の中で責任を担う私たちは、革命、とりわけ私たちの英雄的な国民に対して責任を負っています。そして、その責任感の中には、革命のために、私たちが擁護する大義のために命を捧げる覚悟があるという確信が含まれています。したがって、そのことは、私にとって懸念事項ではありません。

もしその時が来たとしても、米国がキューバに対して侵略を仕掛ける正当な理由などないと思いますし、米国が、キューバで外科的クーデターや大統領の拉致を試みることも許されません。もしそのようなことが起これば、戦いが起こり、戦いが繰り広げられるでしょう。私たちは、身を守り、もし死ぬべき時が来れば死ぬ覚悟です。なぜなら、私たちの国歌にあるように、「祖国のために死ぬことは、生きることである」からです。

しかし、ここで誤解されている点があります。それは、キューバ革命の指導部が常に一人の人物に帰着させられてしまうことです。ある時は最高司令官フィデルに、またある時は革命軍将軍ラウルに帰着させられ、今は私一人に帰着させようとしています。しかし、私たちに集団指導体制があり、そこには団結、結束、そしてイデオロギー的な統一性があり、革命的な規律が存在するのです。したがって、革命の指導体制から一人の人物を除外したところで、何の問題も解決しません。それどころか、その責任を担い、集団として決定を下すことができる人物は数百人もいます。そして、私たちは、あらゆる状況に立ち向かう準備ができています。

クリステン・ウェルカー：おっしゃることは非常に説得力がありますが、ご自身やご家族のことを心配されてはいませんか？もし攻撃を受けた場合、ご自身が言われているように、最期の犠牲を払う覚悟はおありですか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：恐れはありません。私は、革命のために命を捧げる覚悟があります。もちろん、米国政府がそのような態度をとることは望みません。感受性の豊かなアメリカ国民が、自国や自国政府が、米国政府にとって国家安全保障上の懸念を全くもたら

さない小さな島を侵略することを許容したり、良しとしたりするとは思いません。平和を望み、対話を望み、その国民がアメリカ国民と直接的な関係を築きたいと願っている島への侵略を、アメリカ国民が良しとするでしょうか。

さらに、そのような行為を行う正当な理由は何でしょうか。しかし、それだけでなく、キューバへの攻撃には代償が伴います。両国にとって、回避可能な不必要な人命の損失という代償が生じ、物的損害も生じ、米国、キューバ、そしてこの地域の安全と安定に影響を及ぼすことになるでしょう。

このような重大な事柄について決定を下す際には、非常に責任を持って物事を捉える必要があると私は考えます。そして何よりも、その全く非論理的で非合理的な決定を下す前に、より公正な論理が存在するのです。それは、対話すること、議論すること、話し合い、そして対立から遠ざかるような合意に達しようと努めることです。



写真：エストウディオス・レボルシオン

クリステン・ウェルカー：キューバは、米国による攻撃の可能性に備えて積極的に準備を進めているのでしょうか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：いいですか、これまで他の会合やインタビュー、またキューバ国民への演説でも常々申し上げてきた通り、脅威が存在することは明らかです。それは、米国政府の言辞の中に表れています。キューバは、米国を侮辱するようなことは何もしていません。キューバは、いかなる時も米国を攻撃したり、米国の内政に干渉したりすることを示唆したことはありません。しかし、キューバが次の標的だ、キューバを攻撃するつもりだ、

キューバを追い出す方法がある、キューバを制圧するつもりだ、といったことが絶えず言われています。したがって、国の指導者として責任ある立場からすれば、これは警戒すべき事態であり、私たちは、責任を持って国民を守り、私たちのプロジェクトを守り、国を守らなければなりません。ですから、私たちは、防衛の準備をしています。

では、私たちの防衛準備の概念とは、どのようなものでしょうか。私たちには、完全に防衛的な防衛ドクトリンがあります。それは攻撃的ではなく、誰に対しても危険を及ぼすものではありません。単に「全人民戦争」として知られるドクトリンであり、私たちの歴史の経験をもとに集団的に構築されたものです。そして、その構想と体系化は、まさに私たちの歴史の中でも非常に厳しい時期、すなわち米国政府からも深刻な脅威にさらされていた時期に完成しました。そして、それは、国民の参加に基づいています。すべてのキューバ人、女性も男性も、それぞれに使命があり、目的があり、守るべき目標があり、防衛において担うべき役割と立場があります。これは、国民の参加、自発的な参加に基づいて行われており、もちろん、私たちの領土防衛を構成するあらゆる階層や環における防衛準備を含んでいます。しかし、これは、完全に防衛的な概念であり、攻撃的なものではありません。さらに、私たちは、次の事実にも立脚しています。すなわち、防衛の準備を整えることが、戦争を回避し、平和を維持するための最善の方法であるということです。

さらに申し上げますと、私は、米国国民とキューバ国民の関係において、両国民にふさわしいのは、侵略でも戦争の言辞でもないと考えています。米国国民とキューバ国民にふさわしいのは平和であり、信頼、協力、連携、そして連帯、そしてもちろん相互理解の環境をもたらす平和です。

クリステン・ウェルカー：もし米国との対立が生じた場合、キューバ軍は、勝利できると考えますか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：キューバの防衛について語る際、私たちは、栄光ある革命軍について語るだけでなく、その領土防衛の様々な環を構成する私たちの国民についても語っています。はい、私たちは勝利できるでしょう。勝利することは可能です。打ち負かせない敵など存在しません。

クリステン・ウェルカー：しかし、世界最大の超大国である米国に対しては、いかがでしょうか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：米国には、戦争を行うという概念があります。私たちの領土防衛の概念は、非正規戦、非対称戦に基づいています。米国は、ある特定の局面では成功を収めるかもしれませんが、しかし、キューバの国土に侵攻し、さらに占領し続けることは、彼らにとって耐え難いものとなるでしょう。なぜなら、ある決意があるからです。その決意、その信念については、改めてマセオの言葉に委ねます。「戦いで滅びないとすれば、血に染まったこの地の塵を拾うだけだ」と。これは単なるモットーではありません。スローガンでもありません。今、街に出て、その言葉の前半部分を子供や老人、キューバ人、若者に見せ

たり話したりすれば、彼らは即座にその続きを言い当てるでしょう。なぜなら、私たちはそうして育ち、それが私たちの心に刻まれているからです。

繰り返しますが、それは、私たちが望んでいることではありません。私たちは、戦争を望んでいませんし、対立も望んでいません。それは、すべての人にとって大きな代償を伴うことになるでしょう。

クリステン・ウェルカー：では、この異例の状況についてお伺いします。

米国はキューバへの燃料供給を停止しましたが、ロシアが再開しました。ロシアはキューバを支援する許可を得たとお考えですか？ これは、どのようにして実現したのでしょうか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：二国間の貿易という、ごくありふれた出来事が、人道支援という名目で燃料を積んだロシア船の到着ほど、世界中のメディアや人々からこれほど注目されたことはかつてなかったと思います。つまり、これは、単なる商業取引ではなかったのです。

キューバには、他のどの国と同様に、石油を輸入する権利があると思います。また、すべての国には、キューバへ石油を輸出する権利もあります。したがって、米国の対キューバ封鎖をさらに悪化させるこのエネルギー封鎖は、極めて不当なものです。つまり、キューバに対するエネルギー封鎖を宣言したことは、米国政府によるキューバへの多面的な攻撃が依然として続いていることを改めて示しているのです。67年にも及ぶ経済戦争、60年以上続く封鎖、2019年にトランプ政権下でさらに強化され、COVID-19の状況下でもバイデン政権によって維持され、そして今、再び、このエネルギー封鎖という形で「最大限の圧力」が加えられ、キューバ国民に壊滅的な被害をもたらしています。

ロシア連邦は、人道支援という名目でその船舶を派遣することができました。米国はエネルギー封鎖を維持し続けており、したがって、私たちには、本来その権利があるにもかかわらず、次にいつ石油を積んだ船舶がキューバに入港できるかという確信が持てません。そして、今回到着したこの船についても、過度な期待を抱くべきではありません。確かに、このような状況下では重要な支援であることは認めますが、キューバの1ヶ月分の燃料需要のわずか3分の1しか賄えないのです。つまり、これで事態がすでに救われたと信じることは、今なおできないのです。

今回の原油は精製し、全国に配給しなければなりません。その一部を、4ヶ月間稼働停止していた1,200メガワット以上の発電能力の活用にあてる予定です。これにより、電力供給の状況が改善され、経済活動の一部を支えることにもつながるでしょう。

クリステン・ウェルカー：ロシアからの次の石油輸送が到着するまで、あとどれくらい持ちこたえることができますか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：それは極めて興味深い質問であり、非常に困難な状況下で

答えなければなりません。燃料なしに、前進し繁栄する経済を発展させることができる国は、世界中どこにもありません。だからこそ、侵略者の役割を果たす大国が、絶えず攻撃を受けている小さな国をこのような状況に追い込むことには、ある種の悪意や邪悪さがあると言えるのです。

しかし、私たちは手をこまねいてはいません。私たちは、何を重視しているのでしょうか。国内のエネルギー分野を活性化させるための包括的な戦略とプログラムを策定しています。第一に、輸入に頼るよりも、自国の原油に依存することです。キューバには石油埋蔵量がありますが、すべての需要を賄うには至っていません。しかし、私たちは石油生産を増加させることができ、実際に増産を進めています。さらに多くの油田を探索しており、石油井戸の掘削や探査における外国からの投資を歓迎しています。これは、エネルギー分野への投資を通じてキューバに関与できる米国企業にとっても好機となるでしょう。問題は、経済封鎖がそれを妨げていることですが、キューバは、キューバのエネルギー事業への参画を希望する米国企業を、いかなる偏見もなく歓迎するでしょう。これが一つの方針です。

一方で、私たちは、科学とイノベーションに頼ってきました。私たちの科学者たちは、硫黄含有量が高いため非常に重質であるキューバ産原油を精製できるようにする技術を考案し、開発してきました。したがって、生産量を増やせば、需要のすべてを賄えるわけではありませんが、一定の供給量を確保できる可能性があります。それは、現在私たちが持っていない、そのキューバ産原油の精製から得られる製品によるものです。

また、再生可能エネルギー源をより集中的に活用するエネルギー転換戦略を全面的に策定し、もちろん、エネルギー効率化戦略も進めています。これらすべてが相まって、私たちは異なる状況へと導かれつつあります。状況は依然として困難で、時間もかかりますが、私たちは耐え抜くことができるでしょう。

クリステン・ウェルカー：しかし、生き残るためにロシアの支援を必要としている現在のキューバ政権の強さについては、どうお考えですか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：私たちには、何よりもまず、自国民と自国の能力が必要です。まず強調すべきは、封鎖、さらに強化された封鎖、そして今やエネルギー封鎖という逆境に、わが国民がどのような創造性をもって立ち向かってきたかということです。

私は、常に、我が国民の姿勢について語っています。私は、彼らを心から誇りに思っています。なぜなら、彼らは絶えず抵抗の教訓を示しており、その姿勢は創造的な抵抗そのものだからです。キューバ国民は、ただ耐え忍び、屈辱的な形で耐え抜くような抵抗はしません。それどころか、抵抗しながらも成長し、革新し、創造する能力を持っており、それによって逆境を乗り越えることができます。したがって、重要なのは国民であり、私たちの強さは国民と、その国民との結束にあるのです。

さて、私たちにとって、ロシア、中国、ベトナム、メキシコ、その他の国々からの支援は歓

迎すべきものです。米国もまた、対立や侵略、封鎖といった姿勢ではなく、キューバに対する別の視点を持つことができ、キューバを支援することもできるはずです。

それは、キューバの発展を妨げるものなのでしょうか？

クリステン・ウェルカー：トランプ大統領は、キューバは崩壊寸前の国だと述べています。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：非常に興味深いことです。なぜなら、キューバと米国の関係において、特に緊張が高まる局面では、メディアによるイメージ作りや、ステレオタイプを象徴するような描写が頻繁に行われ、さらには世界の世論に対しても、ある特定の視点をほぼ押し付けられているからです。そして今回のケースでは、それが「崩壊」というイメージなのです。



写真：エストウディオス・レボルシオン

私はこう問いたいのです。世界最強の国による 67 年間にわたる継続的かつ執拗な侵略、60 年以上に及ぶ経済封鎖、ここ 6、7 年の封鎖の強化、そして現在のエネルギー封鎖に直面しながら、キューバやキューバ国民のように耐え抜き、崩壊せずにいられる国が、世界中にどこにあるでしょうか？ 私たちは崩壊していません。組織化された国、調和のとれた国を維持しています。

革命の 67 年間で、私たちは社会面で多くの成果を収めてきました。経済面については批判されることもありますが、それは、私たちが戦争経済に直面せざるを得なかったからです。そして、その戦争経済の只中で、私たちの経済は耐え抜き、社会プロジェクトを推進することができたのです。私たちは、社会的弱者や不平等に対処するための 32 以上の社会プロジェクトをもっています。革命の 67 年間で、この国が崩壊しないことを可能にしました。そして、この国は、今後も崩壊することはありません！この国は、成果を築き上げてきたのです。

私たちは、全国民に無料の医療を提供する、普遍的な医療制度を有しています。また、初等教育から大学教育に至るまで、すべての人を包含し、かつ無料である教育制度も整備されて

います。文化やスポーツの分野でも成果を上げており、一人当たりのオリンピックメダル獲得数において、世界でもトップクラスの国の一つです。人的資源を育成し、熟練した労働力や科学者という潜在力も有しています。科学とイノベーションを発展させてきました。キューバのバイオテクノロジーやバイオ医薬品産業の進歩は広く知られています。私たちは、公平性、正義、平等を実現しました。

私たちの社会は、平穏に満ち、安全であり、汚職、麻薬取引、組織犯罪を許さない社会です。自らの可能性に基づき、他国の人々に連帯の精神を示せる社会です。そして、それを崩壊と見なすことはできません。

攻撃的な政策、ジェノサイド的な封鎖政策によって、私たちは、困難な状況に追い込まれていますが、彼らは私たちに「崩壊」という枠組みを押し付けようとしています。私たちは困難な状況に直面しており、国民は日々非常に厳しい現実を強いられています。それは国家レベルの問題ですが、家庭レベルにまで及んでいるのです。しかし、わが国は、崩壊していません。

クリステン・ウェルカー：封鎖や経済制裁が影響を与えていることは誰も否定しませんが、ここではキューバの現状について議論しましょう。

キューバの人々は苦しんでおり、エネルギーや食料が不足しています。現在、国民が経験している苦しみについて、あなたには何らかの責任があるのでしょうか？大統領として、そのことについて責任を感じていませんか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：そうですね、キューバ国民は、苦しんでいます。そしてその苦しみは、先ほど申し上げた通り、2つの側面、すなわち国家レベルと家庭レベルで見ることができます。なぜなら、すべてが日常生活に表れているからです。

さて、その苦しみの根本的な原因は、何でしょうか？それは、私が犯したかもしれない過ちによるものなののでしょうか、それとも、先ほど申し上げたように、集団的な指導によるものなののでしょうか？

クリステン・ウェルカー：それとも政府でしょうか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：あるいは政府でしょうか。

それとも、その苦しみは、何よりもまず、米国によって維持・継続されている、強化された封鎖政策によるものなののでしょうか？私は、その答えは——そして、国民、すなわち国民の大多数がそう答えるでしょう——米国政府による恒常的な敵対政策にあると考えています。いいですか、国家レベルでは、私たちは、2019年以降、封鎖が強化された国です。米国政府が封鎖を強化する 240 の措置を講じ、さらにキューバを「テロ支援国家」と非難する不当なリストに追加した結果、外部からの資金源はすべて断たれました。

私たちはどの銀行からも融資を受けていません。金融面およびエネルギー面での迫害が行われています。キューバと貿易、金融、銀行取引を行う者すべてに対し、強制措置が適用され、圧力がかけられています。海運会社に対しても、石油会社に対しても、同じことが行われています。

彼らは、圧力をかけ、キューバへの観光を遮断するための措置を講じました。例えば、欧州の市民は、米国を訪問するために **ESTA** ビザを取得しています。もしその欧州の市民が観光客としてキューバを訪れると、米国は自動的にその人の **ESTA** ビザを取り消します。つまり、これらは世界のどの国にも適用されない一連の状況なのです。

私たちには、食料を購入するための資金が不足しています。主要な生産活動やサービスに必要な資材を購入するため、必要な医薬品を確保するため、そして国の電力システムや工業施設に必要な修繕を行うための資金が、不足しているのです。さて、それが今、どのような形で表れているのでしょうか。私たちの国民にです。

クリステン・ウェルカー：それでもなお、キューバの人々は、過去 10 年間に経済が衰退してきたため、米国だけを責めることはできないと言っています。何千人もの人々が国を離れています。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：では、今日の家庭生活において、それはどのように受け止められているのでしょうか。食料も医薬品も不足しています。夜明け前の時間は、苦勞の連続となります。なぜなら、政府の無能さではなく、封鎖の結果として 20 時間も停電が続いた後、その時間に家事をこなさなければならないからです。

クリステン・ウェルカー：しかし、これは封鎖以前の話ですよ。人々は封鎖以前から苦しんでいたのです。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：いえ、いえ、説明させてください。そこには視点の混乱があります。そこには視点の混乱があるのです！

私たちは、以前から封鎖下で生活していましたが、2019 年後半には、これら 240 の措置や、キューバがテロ支援国家リストに追加されたことで、封鎖はさらに激化し、性質も変化しました。したがって、すべてが深刻化したのです。

したがって、ここには、これまで蓄積されてきた封鎖の影響に加え、封鎖の激化による影響、そして今また蓄積され、このエネルギー封鎖をさらに強めている影響が重なっているのです。責任を持って申し上げますが、これはキューバ政府のせいではありません。キューバ政府のせいではないのです！

また、不安も生じています。なぜなら、過去 10 年間、他の時期と比べて極めて過酷な状況下で生活してきたからです……。キューバ国民には不満があり、不快感を抱いており、非常

に複雑な状況に苦しんでいます。しかし、キューバ国民の大多数は、その責任を政府のせいにしていません。また、メディアでは多くの操作が行われており、長年にわたるこの封鎖がもたらした影響を無視しようとする動きがあります。

具体的な例を挙げてお話ししましょう。そうすれば、その封鎖の残酷さと、それがキューバ国民にどのような影響を及ぼしてきたか、そして、それにもかかわらず、罪を問うべきとされるその政府の対応がどのようなものであったかがお分かりいただけるでしょう。ここでは、新型コロナウイルスの時期について触れてみたいと思います。

新型コロナウイルスが我が国に侵入した当初、私たちは、巨大多国籍企業によって支配されている世界のワクチン市場にアクセスできないことに気づきました。そのため、封鎖の強化による経済的制約にすでに苦しんでいた私たちは、それらのワクチンを購入するための資金を持っていませんでした。したがって、私たちにとってワクチンの調達是不可能でした。私たちは、キューバの科学に頼らざるを得ませんでした。

一部から非難されているこの政府は、キューバ国民の命を守るために全力を尽くしました。私たちは科学者たちに協力を求め、彼らは短期間でキューバ独自のワクチンを開発することに成功し、それによって私たちは COVID-19 との闘いにおいて最高水準の効果の一つを達成することができました。

新型コロナウイルス対策における私たちの指標は、誰からも封鎖されていない大国である米国よりも優れています。

その後、医療用酸素製造プラントの故障により危機に見舞われました。当時、米国政府は、企業による酸素の販売を拒否しましたが、これは全くもって犯罪的な行為です。しかし、国際的な連帯と組織的な取り組みにより、私たちはその難局を乗り越えることができました。

また、集中治療室の増設が必要となった際、米国政府は、キューバへの人工呼吸器の販売を禁止しました。そこで私たちは、若手科学者に協力を求め、彼らが人工呼吸器を開発しました。

さて、人工呼吸器を作るには、米国製の部品やコンポーネントが必要であることはご存知でしょう。経済封鎖により、米国製部品が 10%以上含まれる機器はキューバへ販売することが禁じられています。そのため、部品一つ、導線一本、サーボモーター一つを手に入れるために、あちこちを駆け回らなければなりません。このようなことは、世界のどこにも課されたことのないことです。

この封鎖は、非常に攻撃的で、まさにジェノサイド的なものです。ですから、それは不当なことです。自国民への献身、社会正義の追求、解決策の模索に全力を注いでいる政府を、こうした悪事の責任を追及するのは不当です。複雑な状況下でも、私たちは解決策を見出しているのですから。



写真：エストゥディオス・レボルシオン

私は、米国政府は、キューバとキューバ国民に対してどれほど残酷であったかを反省すべきだと考えます。そして、キューバの状況を救う救世主として現れるべきではありません。そのような権利などありません。そのような権利も、道徳的根拠も、一切ないのです！

クリステン・ウェルカー：しかし、キューバ国民が経験していることについて言えば、私たち自身の目で見た通り、首都ハバナの街頭で苦しんでいる人々がいます。今こそ、キューバが責任を引き受け、鏡を見て、苦しんでいる人々のためにキューバの経済システムを変えるべき時ではないでしょうか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：私たちは常に自らの現実に対して非常に自己批判的な分析を行い、改善を求めて自らの取り組みを変革し、革命的に刷新しようと絶えず努めています。それは、政治体制とは関係ありません。

私たちの政治体制は、前進を阻むような不可能性を抱えているわけではありません。繰り返しますが、責任があるのは、米国政府が行ってきた経済封鎖です。今日、こうした状況に苦しんでいる人々、そしてその多くが真の責任者が誰であるかを理解している人々こそが、私たちが擁護する政治体制を、幾度もの国民投票や住民投票を通じて承認してきた人々なのです。

私たちの政治体制は、人々のために、社会正義のために、そして私たち全員が前進するためにあるのです。そして、それが何を意味するかという点で、世界の他の国々を不快にさせているようです。なぜなら、それは、私たちにとってのシステムであり、誰かに押し付けたいシステムではないからです。だからこそ、彼らは、そのように封鎖しているのです。いいですか、私たちは、単なる封鎖について話しているのではなく、異例な封鎖について話しているのです。それは、人類史上最も長く続き、最も厳しいものとなっています。

さらに、この封鎖は、キューバ国民だけを対象としているのではなく、米国国民をも対象と

しており、しかも国際化しています。米国の企業家は、キューバに投資することができません。なぜでしょうか？米国の市民は、自由にキューバを訪れることができません。なぜでしょうか？他国の市民や他国の企業家もまた、制裁の対象となっています。

クリステン・ウェルカー：しかし、キューバは、他国とは貿易ができるのではないのでしょうか。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：キューバは、貿易を行うことはできますが、多くの制約があります。多くの制約があるのです！なぜなら、ヘルムズ・バートン法の第3章が適用されることで、封鎖の法律が国際化されているからです。

よく調べ、多くの資料を精査する必要があります。なぜなら、メディアやソーシャルメディアで流布されている、憎悪を煽り、混乱を招くような言説は、現実的ではないからです。私たちも、それらに対して批判的な視点を持ち続けなければならないと思います。そして、私たち政府は、国民と共に、この状況を打開し、前進し、さらにはこうした困難を乗り越えるための意欲を持ち続けています。

クリステン・ウェルカー：未来についてお話ししましょう。

中国とベトナムは、一党制を採用し、改革を進めてきました。なぜキューバも同じことができないのでしょうか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：中国とベトナムは、キューバと同様に社会主義を建設している国々です。

言及すべきは、中国とベトナム——私は両国の改革を深く研究し、キューバの参考としてきました——もかつて、米国による強制措置や制裁の影響を受け、封鎖された時期があったということです。その封鎖は、比較的短期間、およそ10年ほどでした。それらの封鎖から脱した際、両国には社会主義建設の能力を発展させるためのあらゆる可能性が開けていました。一連の改革を実施し、それらの改革を通じて、一党指導の下にある社会主義が実現可能であり、経済的、社会的、技術的な重要な発展を成し遂げられることを実証しました。今日、中国は、世界における重要な大国となっています。

私たちには恒常的な交流があり、兄弟国同士であり、両党の間には深い党間の関係があり、それぞれのプロセスについて絶えず意見交換を行っています。ただ、キューバにも独自の事情があるのです。

キューバは島国であり、米国から90マイルの距離にある国です。キューバは、先ほど申し上げた通り、60年以上にわたる封鎖が解除されていない、攻撃を受けている国です。そのため、私たちは、夢見てきたものや、なりたかった姿を築くことができませんでした。理解できない人々もいるかもしれませんが、封鎖によって妨げられたため、未解決の課題が数多く残っています。

また、もう一つ申し上げたいことがあります。先日、中国とベトナムへの訪問を行った際、そのことを改めて強く実感しました。改革の時期や、中国とベトナムがより発展を遂げることができた時期を考察してみると、両国はインフラや開発の面で、おそらく現在のキューバよりも不利な状況から出発していたのです。ですから、米国政府にはこう言うべきでしょう。「封鎖を解除して、私たちがどう対応するか見てください。封鎖を解除して、私たちがどう対応するか見てください！」と。キューバにはこれだけの潜在能力があり、封鎖下にあっても成果を上げてきたのですから、もし封鎖されていなければ、一体どれほどのことができるでしょうか。なぜなら、私たちは、封鎖下にあっても連帯を示すことさえできたのですから。

なぜ米国は何百万ドルもの資金を費やさなければならないのでしょうか。もし私たちが、彼らが言うように無能で、愚かで、閉鎖的で、革新性に乏しい存在であるのなら、なぜ長年にわたって、アメリカ国民、すなわち納税者が拠出した何百万ドルもの資金を、破壊活動や封鎖、そしてキューバ革命を押しつぶすための計画に投入し続けてきたのでしょうか。なぜ、彼らがそう信じているのであれば、私たちを自滅させるに任せておかないのでしょうか。あるいは、なぜ封鎖のないキューバが、経済的・社会的に大きな影響をもつ発展水準を達成し、世界には別の解決策や別のモデルが存在し得ることを示す可能性を認めようとしないのでしょうか。

クリステン・ウェルカー：未来についてお話ししましょう。

キューバと米国の間では対話が行われてきました。トランプ米大統領との間で合意に達することは可能だとお考えですか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：この点については、何が可能で、何が難しいかという観点からアプローチできると思います。

米国政府との対話や合意は可能ですが、困難を伴うものだと考えています。

その可能性はどこにあるのでしょうか？キューバは、革命以来長年にわたり、米国と隣国として文明的な関係を築くという歴史的な姿勢を常に持ち続けてきました。それは、あらゆる分野において協力し、交流し、正常な関係を築くことを可能にするものです。そして私たちが常に求めてきたのは、その関係を、尊重と対等の立場から、押し付けたり条件をつけたりすることなく築いていくべきだということです。なぜなら、条件を付けることは、対話につながらず、押し付けることは、交渉につながらないからです。

対話が行われ、話し合いが成立し、交渉による合意に至るためには、双方の意思、対話し、互いに耳を傾ける能力、そして尊重、品位、相互理解が不可欠です。

したがって、双方が合意すれば、その対話を行うためのあらゆる条件と可能性は整っているのです。では、何がその対話を困難にしているのでしょうか。第一に、この67年間、米国によるキューバへの政策は、完全に敵対的なものでした。米国は常に、大国として加害者の

立場を取り、キューバは小さな島国として、被害者の立場を強いられてきました。

いくつかの局面において——これは対話が成立しやすくなるもう一つの背景でもあります——合意が交わされ、米国の歴代政権との間で協議が行われ、妥協点が見出されてきました。キューバは、常に約束を守ってきました。一方、米国は、そうした約束の多くを破ってきました。

例えば、現在、米国は他国と協議を行っていないながら、その最中に相手国を攻撃しています。そのため、こうした一連の出来事は大きな不信感を生み出しています。

また、米国には、対話や協議の可能性が見えるたびに、常にその交渉を妨害しようとする勢力が存在することも承知しています。しかし、繰り返し申し上げますが、私は、互いに敬意と節度を持って対話できること、対話を通じて二国間の相違点に対する解決策を見出せること、そしてプロジェクトを展開できる協力分野を見つけられることを確信しています。



写真：エストゥディオス・レボルシオン

私たちが取り組める課題は、数多くあります。麻薬密売やテロ対策、移民問題、国際犯罪への対処といった課題があります。交渉を進め、キューバにおける米国人実業家による投資やビジネスを実現することも可能です。

米国には、キューバ系コミュニティが存在しており、私たちは米国国内でも、また我が国でも、彼らに便宜を図る必要があります。また、キューバを訪れる可能性のある米国の人もいます。文化、スポーツ、医療の分野での交流も可能です。これらすべてが、相互理解の場を築くことを可能にし、対立から遠ざけ、キューバと米国だけでなく、ラテンアメリカおよびカリブ海地域全体の平和と安全を保証することになるでしょう。それが、私たちが目指す未来であり、イデオロギーの違いにかかわらず、良き隣人としての関係、文明的な関係を築くことです。これは素晴らしい機会になると思いますし、私たちの国民にふさわしいことだと確信しています。

あるエピソードをお話ししましょう。

クリステン・ウェルカー：時間がなくなってきたと知らせています。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：残念です、残念ですね！

クリステン・ウェルカー：どうか、質問を最後までさせてください。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：時間が尽きてしまうのは残念です。まだたくさん話し合うことがありますので。したがって、また別の機会にもお話しできることを提案いたします。

しかし、いいですか、2つのエピソードをお話ししましょう。

クリステン・ウェルカー：しかし、それでも構いません。私たちにはまだ多くの質問があります。キューバ国民とアメリカ国民がそれを聞けるように、あなたに時間を差し上げ、回答していただきたいと思っていました。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：そのようにします。

クリステン・ウェルカー：わかりました。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：例えば、2つのエピソードをお話ししましょう。これらは、もし私たちが合意に達し、成果を上げ、これらすべてを可能にする場を作り出すことができれば、両国民がいかに喜びを分かち合えるか、その一端を示してくれるものです。

キューバの科学・技術・製薬バイオテクノロジー機関は、数年前から米国の著名ながん研究機関と共同で臨床試験を行っています。これは、肺がんに対するキューバ製ワクチンの臨床試験です。この臨床試験は、すでに10年近く続いています。この臨床試験の結果は、極めて有望であると言わざるを得ません。米国側もキューバ側も、この臨床試験の成功と、それが米国およびキューバの医療にとってどのような意味を持つかについて、非常に大きな期待を寄せています。

さて、最近、私は毎週キューバの科学者たちと会合を持っています。科学とイノベーションを通じて国の問題解決に取り組もうとしているからです。そこで、アルツハイマー病と闘うための、非常に画期的なキューバ製医薬品に関する臨床試験の成果も提示されました。この臨床試験では、米国コロラド州のクリニックと協力しており、そこから米国の患者がキューバで治療を受け、その後米国に戻って治療を継続しています。

コロラド州のそのクリニックの院長が、患者たちの状態がどのように改善し、他のどの薬よりも優れた結果が出ているかについて語っている様子を、ぜひご覧いただきたいものです。したがって、少数派やエリート層の意向に迎合する封鎖政策によって、両国民の間に築かれる可能性のある関係を奪ってはなりません。そして、私が強く訴えたいのは、相互理解と配

慮を持ち、両国関係の中に機会を見出し、対立や戦争、侵略を助長しないようにすることです。

クリステン・ウェルカー：交渉の将来について、さらに話を続けたいと思います。トランプ大統領は合意に達すると、あなたは確信していますか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：そうですね、私たちが対話を行っているのは、合意に達することを望んでいるからです。先ほど申し上げた通り、合意に至るかどうかは、協力と協調の分野を見出し、相互理解の場を築き、この問題に感受性と責任感、そして真摯な姿勢を持って取り組むという、双方の意思にかかっています。

クリステン・ウェルカー：大統領、マルコ・ルビオ国務長官と直接対話されていますか？彼を信頼されていますか？



写真：エストゥディオス・レボルシオン

ミゲル・M・ディアス＝カネル：私たちは対話を続けていましたし、米国側が対話の意思を示す限り、米国政府が私たちと対話するために指名する代表者とは今後も対話を続けていく所存です。

対話プロセスは複雑なものです。まず対話のルートが確立され、その後、議論を行い、共通の利益を調整できる議題を構築する必要があります。

クリステン・ウェルカー：しかし、ルビオ長官とはお話しになりましたか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：いいえ、私はルビオ長官とは話したことがありませんし、ルビオ長官とは面識もありません。

議題を構築し、議論を行った後、双方にその意思があれば、合意に至ることは可能です。しかし、これらは、誤った期待を抱かせたり、情報が操作されたり、目的が歪められたりしな

いよう、非常に繊細に、責任を持って、品位と慎重さを以て進めなければならないプロセスです。したがって、これらの件について詳細は控えることにいたします。

クリステン・ウェルカー：米国側の主要な要求事項についてお話ししましょう。報道の自由の承認、政治犯の釈放、公正な選挙の実施などです。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：現時点では、これらの点について私たちに要求した人は、いません。そして私たちは、国内の秩序、キューバの憲法秩序、そして私たちの政治体制への尊重といった事項は、米国との交渉や議論の対象にはならないと明言しています。

それで、クリステン、キューバや民主主義、人権、私たちが専制政治や独裁政権であるかどうか、表現の自由、労働組合の存在といったテーマを巡る概念について、これまで存在してきたあらゆる虚飾を乗り越える必要があると思います。そこには多くの操作や偏見があり、私たちは、それを乗り越えなければならないと、私は考えています。これについては、今は時間はありませんが、多くの時間を要するでしょう。しかし、私たちがどれほど民主的であるかを証明する論拠は、すべて揃っています。キューバの選挙制度がどのようなものか、それは草の根から生まれた制度であること、私たちが、どのようにして国民と共に権力を行使しているか、いかにして人権の擁護者であるか、いかにして独裁政権ではないか——これらについては、もっと長い時間をかけて説明する必要がありますので、別の機会にこれらのことについてお話しできればと思います。しかし、乗り越え、排除しなければならない偏見が数多く存在します。

クリステン・ウェルカー：あと2つの質問です。

キューバには依然として1,200人以上の政治犯がいます。投獄されているマイケル・オソルボは、ラテン・グラミー賞を2度受賞しています。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：これもまた、そうした偏見が存在するテーマの一つです。キューバには、政治犯がいると言われていました。キューバでは、あなたがおっしゃったように、国民は困難な状況に置かれています。キューバでは、誰もが革命を支持しているわけではありません。革命を受け入れず、日々様々な形で革命に反対する意思表示をしている人々もいますが、彼らは、投獄されてはいません。彼らが作り上げたそのイメージ、つまり「キューバでは革命に反対する者は、みんな投獄され、政治犯扱いされる」というイメージは、嘘であり、中傷であり、キューバ革命の評判を傷つけ、混乱させ、悪魔化し、その名声を抹殺するための捏造の一部なのです。

さて、実際にはどうなのでしょう？ 例えばキューバでは、特に長時間の停電や供給の問題がある際などに、デモが行われます。人々がデモを行う際、何をやるのでしょうか？ 彼らは政府機関や国家機関を訪れ、そこで対応してくれる指導者たちと意見を交わし、説明を受け、問題が解決されるか、あるいは反論が提示されるのです。これは完全に民主的な行為であり、そうした行為を行ったからといって誰一人として投獄されることはありません。



写真：エストゥディオス・レボルシオン

しかし、しばしば誤解が生じ、特定の嫌悪感や不満を抱く人々が、破壊行為や、私たちの憲法秩序を乱す行為、あるいは国内の秩序を乱し、市民の平穏を脅かす行為に走らせるよう煽動することがあります。さらには、テロ組織から資金提供を受けていることも多く、また、キューバに対する破壊活動を煽る米国政府機関のプログラムから資金提供を受けていることも少なくありません。また、キューバの米国大使館から指示を受けていることさえあります。そして、そうした人々は、単にデモを行ったから投獄されているわけではありません。世界中のどこであれ、憲法と法的手続きを尊重する国であれば当然のこととして、破壊行為や、世界中どこでも非難されるべき行為を行ったために投獄されているのです。キューバには政治犯は、いません。あなたにそれを断言します。

クリステン・ウェルカー：インタビューもそろそろ終わりにしなければなりません。最後の質問をしなければなりません。

キューバ、そしてキューバ国民を救うためなら、あなたは、辞任する用意はありますか？

ミゲル・M・ディアス＝カネル：あなたは著名なジャーナリストですが、世界の他の大統領にそのような質問をしたことはありますか？

クリステン・ウェルカー：もしそれを米国が求めているのなら、そうします。というのも、それは米国が課している条件の一つだからです。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：繰り返しますが、あなたは世界の他の大統領にそのような質問をしたことがありますか？他の大統領に尋ねたことはありますか？

トランプ氏に尋ねてみることはできますか？

クリステン・ウェルカー：私はトランプ大統領に非常に厳しい質問をしています。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：それはあなた自身の質問ですか、それとも米務省や米政府からの質問ですか？

クリステン・ウェルカー：私の質問は、私たちが米政府から聞いたことの一つだからです。もし、それを求めるのであれば。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：あなたの率直さゆえに、まさにそうした点からその質問をしているのだと受け止めます。

第一に、キューバにおいて政府のトップや要職に就く人々は、米政府によって選出されたわけでも、米政府の指示を受けているわけでもありません。私たちは、主権を有する自由な国家です。私たちは、自決権を持ち、独立しており、米政府のいかなる意図にも従うことはありません。

一方、キューバの指導者たちは、権力のエリート層を代表しているからという理由でその地位に就いたわけではありません。私の出自、生まれ故郷、どのような家庭に育ったか、そしてこれまでの人生で何をしてきたかをご覧いただければお分かりいただけるでしょう。私たちを選んでいるのは国民です。もっとも、その事実を無視しようとする勢力も存在しますが。

私たちのうちの誰であれ、責任ある地位に就くためには、草の根レベル、つまり選挙区において、何千人ものキューバ国民によって選出されなければなりません。その後、国民代表大会において、他の国民を代表するキューバ人たちが、世界の他の国々と同様に、間接選挙によってそれらの役職を選出するのです。世界の他の国々と同様に！私たちにも、完全に国民の参加に基づいた選挙制度があるのです。

したがって、私たちが責任を担う際、それは、個人的な野心のためでも、組織的な野心のためでも、ましてや党内の地位のためでもありません。なぜなら、私たちの党は、選挙主義ではないからです。私たちは、国民からの委任によってこれを行うのであり、革命家という概念には、降伏するという考えは存在しません。

もしキューバ国民が、私が無能であるとか、国民の期待に応えられないとか、国民を代表していないと理解したならば、私が指導部に留まるべきか、あるいは大統領の職に就くべきか否かを決めるのは、国民自身なのです。

さらに、国の指導、革命の指導、そして革命の継続を、ただ一人の人物にのみ集中させることはできないということを、どうか忘れないでください。ここには合議制の指導体制があり、それは、国民と深く結びついた合議制の指導体制なのです。しかし、私たちに変化を強要したり、要求したりできるのは、米国ではありません。

キューバに対して敵対的な政策をとってきた米政府には、キューバに何かを要求する道

義的な資格はありません。ましてや、キューバ国民の状況を懸念しているとか、キューバ政府が、キューバをこのような状況に追い込んだと主張する道義的な資格など、彼らにはありません。その責任のすべては、彼らにあるのですから。

最も重要なのは、彼らが批判的な姿勢、誠実な姿勢をとり、自らの政策が、キューバ国民にどれほどの苦しみや制約をもたらしたか、また、米国国民をキューバとの正常な関係からどれほど遠ざけてきたかを直視し、私たちが求めてきた通り、私たちが希望し、関心を持っている通り、いかなるテーマについても、条件をつけず、私たちが米国の体制に変化を求めないのと同様に、彼らも私たちの体制に変化を要求することなく、私たちを結びつけるもの、相互理解の余地を広げるものに焦点を当て、繰り返しになりますが、対立を避け、両国民にとって有益で、良好な関係、友情、そして連帯に満ちた未来を築くために取り組むことです。

クリステン・ウェルカー：ディアス＝カネル大統領、ありがとうございました。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：こちらこそありがとうございました。そして、米国の国民に向けて話す機会を与えてくださったことに感謝いたします。

また、他のテーマについて、より幅広く話し合うために、皆様はいつでも歓迎いたします。

クリステン・ウェルカー：ありがとうございます。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：みなさん、ありがとうございました。

クリステン・ウェルカー：この議論を続けるために、またインタビューの機会が持てればと思います。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：そうです、そうです。

クリステン・ウェルカー：光栄です。

ミゲル・M・ディアス＝カネル：ありがとうございました。